

# かけはし

Vol.15 2009.11月発行

京都府立与謝の海病院

京都府立与謝の海病院 地域医療連携室

〒629-2261 京都府与謝郡与謝野町字男山481  
TEL:0772-46-6665(直通) / FAX:0772-46-5121  
URL <http://www.pref.kyoto.jp/yosanoumihp/>

## 新型インフルエンザ流行にあたって

今年3月にメキシコで発生した豚インフルエンザは、半年を経て新型インフルエンザのパンデミック（世界的大流行）という形で日本にまで押し寄せて来ました。これに対する①予防法、②症状が出た時、③感染した時について、要点を確認しましょう。

**①予防法：**新型インフルエンザの主な感染経路は飛沫感染であり、一部に接触感染、ごく稀に感染者と共に長時間狭い空間内にいた場合には空気感染も報告されています。そこで感染を防ぐには、なるべく人ごみを避け、外出後はうがいと手洗いを励行することが必要です。また睡眠や栄養を十分とり免疫力をつけること、冬場には室内の加湿も有効です。医療関係者が患者さんと2m以内に接する場合は、自分も患者さんにもサージカルマスクを付ける必要があります。特に患者さんのマスクは大切に、これにより咳やくしゃみ時の飛沫数を1/100以下に減少させるとの報告もあります。

**②症状が出た時：**新型インフルエンザの症状としては、頻度の高い順に発熱、咳、咽頭痛、鼻水、筋肉や関節の痛み、下痢や嘔吐などで、季節性イ

ンフルエンザとほぼ同様です。潜伏期間は1-7日間（多くは4日まで）ですので、その間に感染の機会がなかったかを考えます。多くの症例は軽症のままで治癒しますし、WHOや米国CDCでは一般にタミフルの服用は不要としています（ただし日本感染症学会は一般の軽症者もタミフルを服用すべきとしています）。しかし妊婦、乳幼児、高齢者とくに基礎疾患のある人（呼吸器・心臓・腎臓・免疫系の疾患、糖尿病、高度肥満など）は、かかりつけ医などを受診して下さい。受診する際は、事前に医療機関に電話をし、受診時にマスクの装着が必要なのは前述の通りです。医師が診察する際は、肺炎や脳症などの合併に注意し、ライ症候群予防のため18歳以下にはサリチル酸の投与は控えるべきです。



京都府立与謝の海病院  
副院長 時田和彦

**③感染した時：**もしも自分が新型インフルエンザと診断されたら、周囲の人に近づくときはマスクを付けます。周囲への感染は発症の前日から発症後7日間程度まで、または解熱後2日間程度までとされており、その間はなるべく外出を避け、家人とは別室にいる方が良いでしょう。

以上、新型インフルエンザへの対応をまとめました。日本の感染状況を見ると、これからピークを迎えると考えられます（図1）。しばらくはインフルエンザから目が離せません。

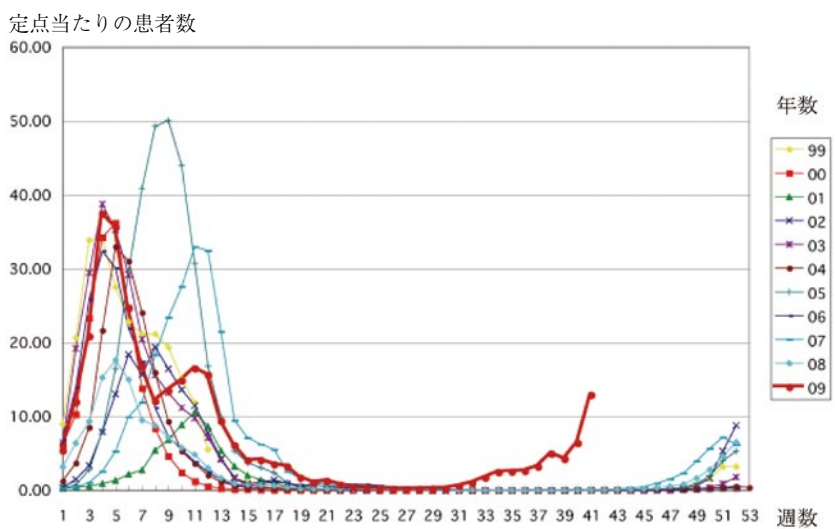


図1 日本の過去10年間のインフルエンザウイルス分離・検出状況。  
2009年の第41週は10月5日から10月11日まで。(国立感染症研究所ホームページより)

病院理念

患者が中心の、地域に開かれた病院